

3ステップで子どもをサポート！

# 成功する 志望校選び

大学を取り巻く環境は、複雑・多様化しています。  
大学や入試についてはもちろん、大学卒業後の進路も併せて  
正しい知識を身に付け、お子さんの志望校選びを  
しっかりサポートしましょう。

ステップ1

大学の  
今を知る

p.30

ステップ2

大学卒業  
後の進路  
を考える

p.36

ステップ3

入試制度  
を調べる

p.42

# 3 子どもの志望校選びをサポートする 3つのステップ

## 保護者として 必要な知識を押さえる

大学での学びの内容や入試は多様化しています。子どもが納得できる志望校を見つけられるようにサポートするためには、保護者が今の大学や入試について理解しておくことが必要です。進路決定のためにまず把握しておきたいのは、高校の進路指導・行事と大学入試のスケジュールです。下の表で「いつまでに」「何をするのか」を、保護者としてしっかり理解しておくことが、子どもをサポートする最初のステップとなります。

そのうえで、「大学の今を知る」「大学卒業後の進路を考える」「入試を知る」の3ステップで、志望校選びのポイントを把握しましょう。そうすれば、保護者の経験もふまえた広い視野で子どもにアドバイスができます。コミュニケーションを大切に、子どもの将来につながる志望校を発見しましょう。

## 進路決定までのスケジュール

10月	9月 8月	7月	5~6月
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 推薦入試出願の最終確認・調査書などの出願書類作成</li> <li>● センター試験出願</li> </ul> <p>現役生は、在籍する高校を通じて出願します。私立大学志望者で、センター試験利用入試を受験する場合も、必ず出願します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指定校推薦・校内選考</li> <li>● 各大学が募集要項を発表</li> </ul> <p>高校へ推薦依頼がある大学へ、どの生徒を推薦するかを高校が決定します。</p> <p>私立大学では、夏休み前に発表するところもあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三者面談</li> </ul> <p>保護者を変えて、志望校や推薦入試・AO入試の利用、夏休み中の学習計画などを話し合います。</p> <p><b>60ページの後</b> <b>三者面談チェックシート</b></p> <p>オープンキャンパス</p> <p>ほとんどの大学が夏休みに開催しています。実際に大学を訪問して、学びの内容や施設、周囲の環境、キャンパスの雰囲気などを確認できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 進路説明会・二者面談</li> <li>● AO入試説明会</li> </ul> <p>進路希望調査をもとに、高校の教員と子どもで、志望する進路を確認します。</p> <p>私立大学では、6月ごろからAO入試の説明会やセミナーを実施するところもあります。オープンキャンパスへの参加がエントリー資格になることもあります。</p>

ココを  
チェック!

成功する志望校選びができる!!

ステップ1

大学の  
今を知る

今の大学ではどのような学問研究がなされ、どのような教育が行われているのかを理解しましょう。進路について子どもと話し合う際の基本的な知識になります。

詳しくはp.30

ステップ2

大学卒業後の  
進路を考える

大学は社会に出るための準備期間でもあります。したがって、卒業後の進路や各大学のキャリア・就職支援も、志望校を決める大切な要素です。

詳しくはp.36

ステップ3

入試を  
調べる

大学に入学するための選抜方法は、学力試験だけではありません。どの大学も多種多様な入試方式を実施しています。子どもの実力を十分に発揮できる入試形態を選びましょう。

詳しくはp.42

3月

- 国公立大学・中期日程試験
- 国公立大学・前期日程合格発表
- 国公立大学・後期日程試験
- 国公立大学・前期日程入学手続き
- 国公立大学・中期日程・後期日程合格発表→入学手続き

このスケジュールは一般的な例です。  
高校・大学によって時期や内容が異なります。

2月

- 国公立大学・個別試験出願
- 国公立大学・前期日程試験

- センター試験受験  
2011年度の試験日は、1月15・16日です。
- 私立大学一般入試  
2月がピークですが、3月に後期試験を実施する大学もあります。

1月

- 調査書など一般入試の出願書類作成
- 私立大学一般入試出願  
12月から始まり、3月末まで受け付けている大学もあります。

12月

- 最終面談  
教員と子ども、もしくは保護者を交えた三者で、一般入試で受験する大学の最終確認を行います。

11月

- 推薦入試出願→受験→合格発表  
国公立大学の推薦入試の合格発表は、センター試験を課さない場合のほとんどが12月下旬になります。センター試験を課す場合は2月中旬で、個別試験を1〜2月上旬に行う大学もあります。

# Step 1

# 大学の 今を**知る**



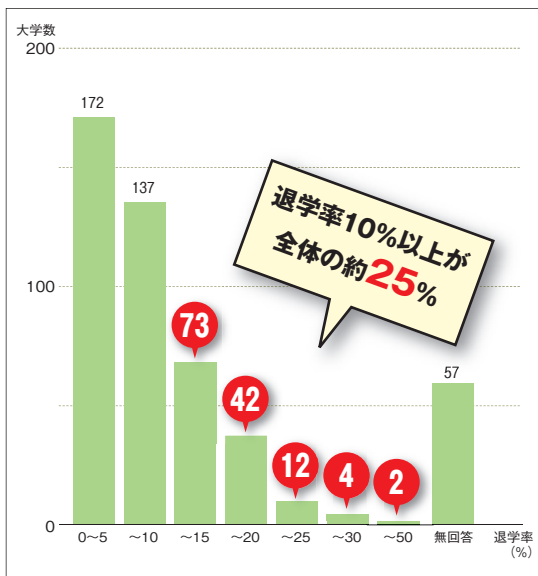
大学に進学したものの、大学で学ぶ意欲が持てず、退学してしまうというケースが近年増えています。実際、2007年度に読売新聞が行った調査によると、1年間の退学率が40%を超える大学もありました。

退学するような不幸な事態にならないためには、子どもの将来の希望を見据えたうえで、子どもの学びたい内容と一致している大学・学部・学科を選ぶことが大切です。そのために、保護者はまず、今の大学を理解しておく必要があります。

Step 1では、子どもの志望校選択をサポートするために必要な大学での学びについて紹介します。今の大学で何を学べるかをしっかりと理解したうえで、お子さんと一緒に志望校選択を始めましょう。

大学での学びを知り、  
子どもの進路選択の幅を広げる

■ 退学率別大学数

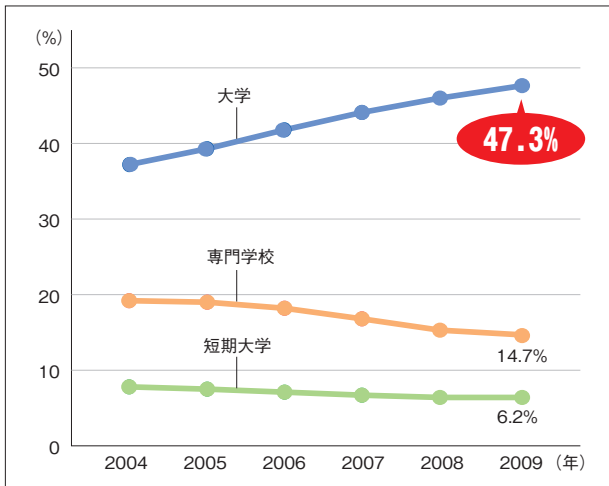


## 大学生活を全うするカギとなる 将来の目標と強い学習意欲

退学の理由はさまざまですが、学習意欲の喪失や修学意欲の低下も一因として挙げられます。大学教育を受けやすい制度に改革する大学も増えていますが、将来の目標と強い学習意欲を持って進学することが大切です。

2008年4~6月に全国の大学を対象に読売新聞が行った「大学の実力-教育力向上への取り組み」に関するアンケート(回答数499校)を基に作成

## ■ 高校新卒者の進学率の推移



文部科学省「学校基本調査」を基に作成

進学先の種類

## 19年連続で大学進学率が上昇 強まる4年制大学志向

専門性の高い知識と  
思考力を養う大学

大学数が増えているにもかかわらず、少子化の影響で、受験者数は減り続けていることもあり、大学への関心は広がって

ます。社会全体が豊かになったことも加わり、大学進学が身近になりました。その結果、過年度生を含めた大学進学率は19年連続で上昇。2009年度には50・2%となり、過去最高を記録しました。

大学では、幅広い分野の教養と専門的な知識・技術が学べます。4年制が基本ですが、医学・薬学・歯学部・獣医学部などは6年制が一般的です。

大学を卒業すると、経済学部なら学士（経済学）といった学位が与えられ、大学を卒業した証しとなるとともに、大学院に進学できるようになります。

また、文部科学省以外の省庁が管轄する高等教育機関として、大学校の一部があります。防衛大学校や気象大学校といった、各省庁の幹部養成や専門的な技術指導者の養成に特化していま

ます。修業年限は大学校によって異なりますが、卒業すると大学と同じく学士の学位が与えられます。

実務能力と教養を身に付ける短期大学

大学志向が高まる一方で、短期大学の志願者数は減ってきています。それに伴い、4年制大学へと移行する短期大学も増えたため、学校数は1996年の598校を境に減り、2009年度では406校になりました。

短期大学は教養に加え、社会に役立つ実務能力を学ぶ教育機関です。一般的には2年制ですが、国家資格取得を目的とした医療・看護系の学科では3年の修業年限を要します。

修業年限が短いために、いち早く社会に出られるというメリットがあります。福祉や看護と

いった、人材の育成が急務の分野において、短期大学の役割が期待されています。

短期大学を卒業すると、短期大学士の学位が与えられ、大学3年次、または2年次へ進学する「編入学」という道が開けます。短期大学で修得した単位は、そのまま大学の卒業単位として認められます。

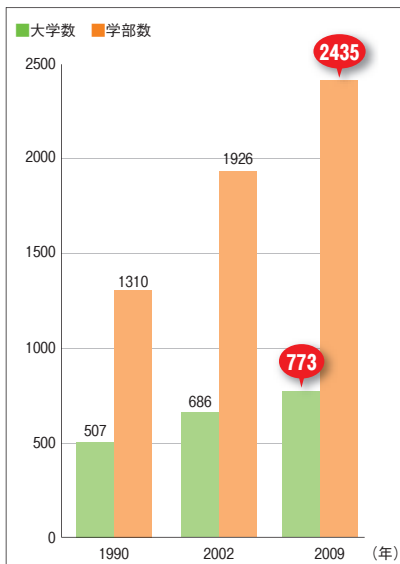
実務的な技術と知識を修得する専門学校

専門学校は資格や実務的な技能修得をめざす教育機関で、修業年限は学校によってさまざまです。規定を満たす専門学校の卒業者には高度専門士の学位が与えられ、大学院への進学も可能になります。

しかし、進学率は急激に減り、ここ5年で4・5ポイントも減少しています。

しかし、進学率は急激に減り、ここ5年で4・5ポイントも減少しています。

## ■ 大学・学部数の推移



文部省「学校基本調査」を基に作成

## 学部・学科

# 複雑化・細分化する大学での学び 志望校選びは学びたい学問から

## 大きく変化した 大学の学問

かつては法律を学ぶなら「法学部」、経済を学ぶなら「経済学部」といったように、学問領域の区分は比較的単純でした。しかし、社会を取り巻く環境が複雑になったことを受け、一つの問題に対し、従来の学問領域だけでなく、さまざまな視点から解決の糸口を見つけることも

必要になっていきます。そうした背景から今の大学では、1つの研究テーマがあらゆる学問領域にわたって研究されています。

例えば、「環境」を学ぼうとする場合、環境破壊の実態調査や改善するための技術開発を目的とした生物学的なアプローチだけでなく、環境破壊がどのような経済影響を及ぼすかを研究する環境経済学という文系分野からのアプローチもあります。

このように、子どもが興味を持っている分野を学ぶにも、さまざまな学部・学科からアプローチができます。保護者は、幅広い視点から志望校選びをアドバイスすることが必要です。また、時代の変化に伴い、最先端の技術や社会が求めている分野を学べる学部・学科の新増設や改組が、積極的に行われて

います。「グローバルスタディーズ」「キャリアデザイン」といった、保護者世代にとっては聞き慣れないカタカナ学部も次々と誕生しています。

## 子どもが学びたい学問を見つめる

志望校を選ぶ基本は、子どもが将来就きたい職業や興味のある分野を学べる大学・学部・学科を選ぶことです。そのために、子どもとコミュニケーションを取り、子どもがどのような分野に興味があり、どんなことを学びたいのかを把握しておかなければなりません。

そのうえで、大学案内を取り寄せて、どの大学・学部・学科で、子どもの希望に合った学問が学べるのかを話し合ったり、オープンキャンパスに参加したりして、進学情報を集めること

が大切です。

こうしたコミュニケーションを重ねることによって、子どもはもちろん、保護者も納得する志望校選びができるでしょう。

## 学びの内容から大学を選んで資料を取り寄せましょう!

本誌61ページの「学問で大学を調べる」では、大学で学べる学問を学問系統に分けて紹介しています。興味のある学問系統と地域で、大学の資料(大学案内)もまとめてカンタンに取り寄せられますので、活用してください。





教育・修学サポート

「単位互換制度」「初年次教育」  
充実する修学サポート

学びの幅を広げる  
さまざまな制度

大学では、学生が興味を持ったことに対し、さまざまな角度から勉強できるように、学べる知識の幅を広げる制度やサポートの充実を図っています。他学部・他学科の授業を受けられる制度はもとより、他大学で受けた授業の単位を修得できる「単位互換制度」を実施している大学もあります。

中には、同じ地域にある複数の大学・短期大学が、地域発展のきっかけにするため、単位互換を認め合い、「大学コンソーシアム」として連携するケースもあります。大学コンソーシアム協議会には46組織が加盟しています。企業、自治体などとも連携し、インターンシップ（就業体験）を行ったり、地域活性

化のイベントを行ったりするなどの広がりを見せています。このような取り組みは、大学での学びの充実度がわかるため、進路選択を進めるうえで参考にしておきましょう。

学習意欲を高める  
教育制度の実施

大学では、高校時代の「受身の勉強」から「自主的な勉強」へと学び方が変わります。そのため、大学入学後、その変化にとまどい大学の学習についていけない学生が少なくありません。このような現状をふまえて、大学ではさまざまな取り組みを行っています。

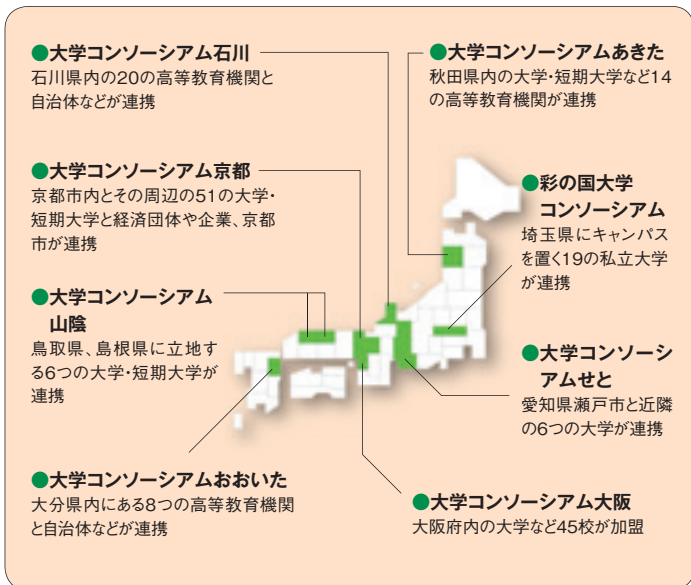
2007年度時点で、全大学のおよそ80%が「初年次教育」を導入しています。ノートの取り方をはじめ、レポートや論文の書き方、ディスカッションの

方法など、大学で学んでいくうえで必要になる、基礎的なスキルを習います。

また、入学手続きを完了した学生に対し、入学前に取り組む

べき課題を提出する「入学前教育」を取り入れる大学も増えています。読書感想文や小論文、通信教育の受講を義務づけている大学もあります。

■ 大学コンソーシアムの例



「全国大学コンソーシアム協議会加盟組織一覧」を基に作成



研究開発・  
産学連携

## 世界に先駆ける技術開発や地域活性化 社会に広がる大学の研究成果

### 国際的に優れた研究を 支援する取り組み

さまざまな産業で国際競争が激しく、世界に先駆けた技術、商品の開発が求められる時代になりました。そこで、大学での研究を社会に還元し、国際競争を勝ち抜くために役立てようという気運が高まっています。

文部科学省では、国際競争力のある優れた研究を支援しようと、将来的にも発展が期待される大学の研究に5年間、研究費を補助する「グローバルCOEプログラム」を2007年度から実施しています。

グローバルCOEに認定された大学は、世界レベルの研究を行っていることが国によって認められたといえます。研究内容が授業に反映されることもあるので、選定された大学に進学す

れば、最先端の研究の一端に触れられるでしょう。大学を選ぶ際の一つの視点となります。

また、国だけではなく、第三者機関でも、大学の研究が社会に役立っているのかを評価する取り組みが行われています。

日本技術者教育認定機構では、大学が行う技術者養成を目的と

### ■ 2009年度グローバルCOEプログラム採択拠点一覧

大学名	プログラム名称
北海道大学	境界研究の拠点形成
東京大学	ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏
東京工業大学	地球から地球たちへ
名古屋大学	地球学から基礎・臨床環境学への展開
京都大学	極端気象と適応社会の生存科学
大阪大学	認知脳理解に基づく未来工学創成
九州大学	自然共生社会を拓くアジア保全生態学
東京女子医科大学	再生医療本格化のための集学的教育研究拠点
早稲田大学	アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学

文部科学省 平成21年度「グローバルCOEプログラム 採択拠点一覧」を基に作成

した教育プログラムの中から、社会の求める水準を満たしたプログラムを「JABEE認定プログラム」として認定しています。子どもが、研究や技術職に関心のある場合は、日本技術者教育機構のホームページで認定された大学・学部を確認するとよいでしょう。

### 産業界や地域社会と 大学の連携

大学と民間企業の連携、いわゆる産学連携も盛んに行われるようになっていきます。

大学が、民間企業や公的研究機関と連携して研究を行う共同研究の数は年々増え続け、2008年度では1万7638件となっています。特に、独立法人化した国立大学では、企業とのかかわりに積極的で、研究成果を企業などへ技術移転するため

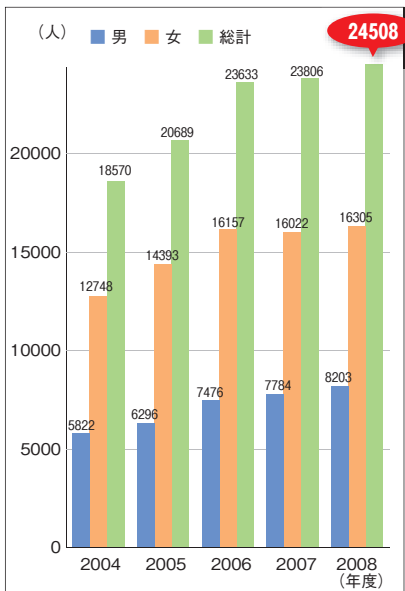
の「TLO」という機関を設置するケースが増えています。

また、大学の教員や大学院生が研究結果をもとに起業する「大学発ベンチャー」も、盛んに行われています。2008年度は1809社が事業活動を行い、株式公開する企業も出ています。

最近では、企業だけでなく地方自治体と大学が連携するケースもあります。大学の教員による生涯教育の講演会をはじめ、地域の観光地化や特産品開発などの町おこし、都市再生プログラムへの参加など、地域活性化の役割も担うようになっていきます。このような取り組みは学生が社会に接するきっかけになり、社会に出てからの実践力を養うことにもつながります。



■ 日本人学生留学数の推移



日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」「協定等に基づく日本人学生の海外派遣状況」を基に作成

留学・国際交流

# 大学でも国際化が進行 海外留学者数も増加

## 国際的な視野を 持った人材の育成

経済のグローバル化や環境破壊の深刻化が進んでいる現代社会では、国を超えた連携や国際的な視野が重要になっていきます。大学でも国際理解を深めるために、「国際」の名称を冠した学部・学科が新設されています。また、ネイティブスピーカーによる会話演習や、学生の語学力

に合わせて授業を行う「習熟度別授業」など、語学習得に力を入れる大学が増えています。

## サポート体制を整え 留学しやすい環境に

実践的な国際感覚を身に付けるために、各大学では世界各国の大学と交流・連携を活発化させており、海外に留学する学生

は年々増えています。

かつては、「留学は時間とお金に余裕がある人たちがするもの」という印象がありました。

しかし、今の大学は、留学に対するさまざまなサポート体制を充実させ、留学しやすい環境づくりに力を入れています。

例えば、海外留学に伴う奨学金もその一つで、TOEFL®

などの成績優秀者に滞在費などを支給しています。また、授業の一環として留学が組み込まれていたたり、留学先の大学で修得した単位が卒業単位として認められる「単位互換制度」を導入したりする大学もあります。子どもが留学を視野に入れている場合は、サポート体制をチェックするとよいでしょう。

## 実際の大学では…

### 英語力向上プログラム「E-STEP」 中京大学

資格や留学、就職など、それぞれの目的にあった英語力向上のためにトータル支援プログラム「E-STEP」を全学部対象に実施しています。習熟度に対応したネイティブスピーカーによる英会話講座やTOEIC講座、留学経験や身に付いた語学力を就職に生かすためのキャリア支援など、レベルや目的に合わせたプログラムが充実しています。

### 新しいキャンパスで 世界的視野を養う 愛知大学

名古屋市の新しい国際交流歓迎拠点「ささしまライブ24地区」に建設中の新・名古屋キャンパスは、国際機関やコンベンション機能が集積する一大交流拠点にあります。ここを拠点に、行政や国際ビジネスの現場を体験できる連携教育や世界につながる新しい学びを計画。地球規模の国際感覚を養い、今までにない広い視野の学びを展開する予定です。

### 4年間で 2大学の学位を取得 愛知淑徳大学

2007年度から提携校の中国・天津外国語学院と「複数学位取得プログラム」を実施しています。このプログラムは2年間、提携校に留学し修得した単位と在籍した年数を自校のものとして認定するものです。原則として、4年間で提携校と自校の学位(学士)を取得できます。日本と中国の2つの学位を4年間で取得できるプログラムとして注目を集めています。